

5-3. 植栽計画

◆基本的な考え方

- サクラを中心とした植栽により“上越らしさ”を創出する
- 低木や地被類により、通年で花を感じる空間を演出する

東口：植栽計画の考え方

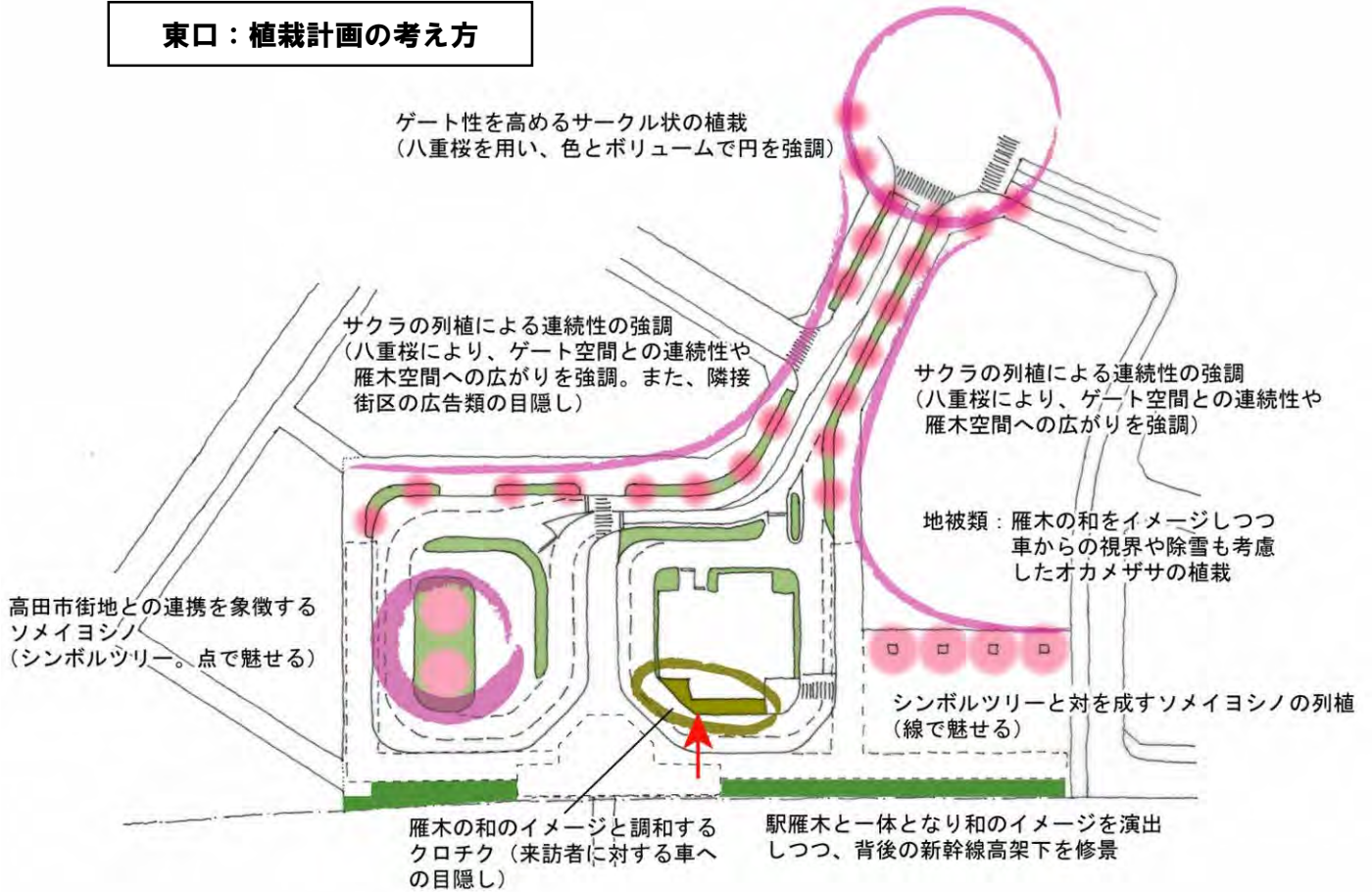


図-37 東口植栽計画の考え方



図-38 東口の植栽イメージ

西口：植栽計画の考え方

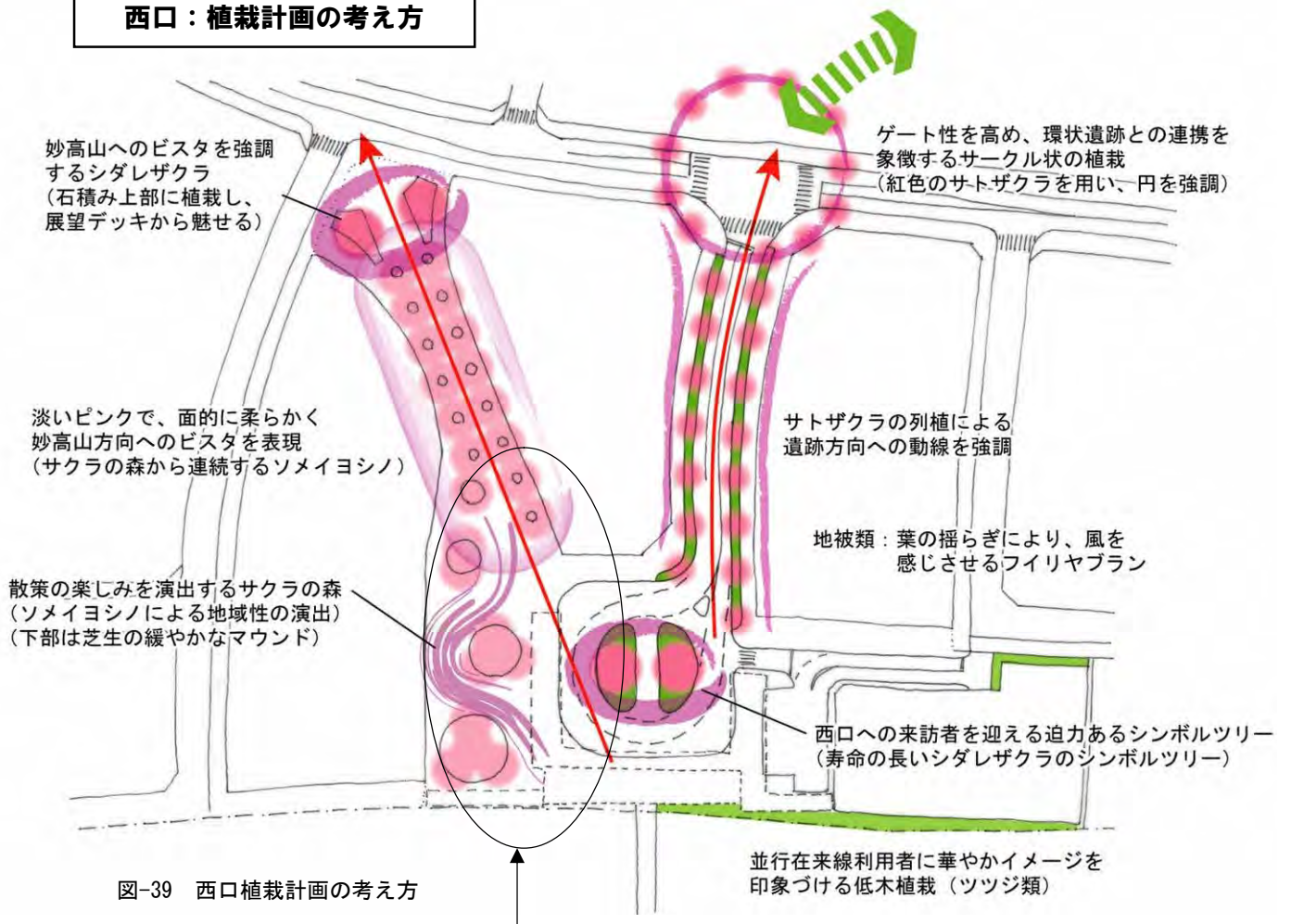


図-39 西口植栽計画の考え方

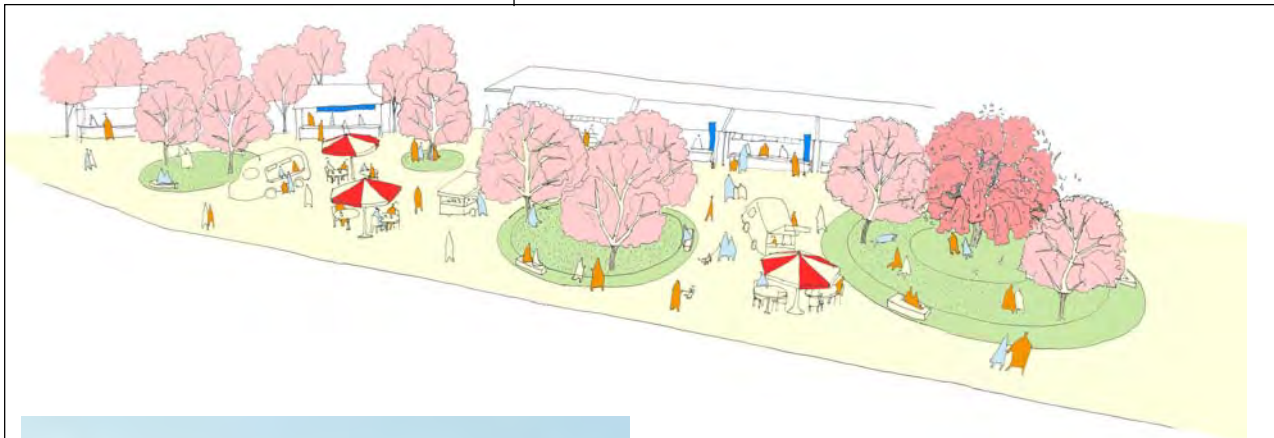


図-40 桜の庭でのイベント利用イメージ

■西口駅前広場

- ・サークル状の植栽地間を、サクラを楽しみながら散策
- ・芝地では、露店で購入した食べ物を食べながら、サクラを観賞

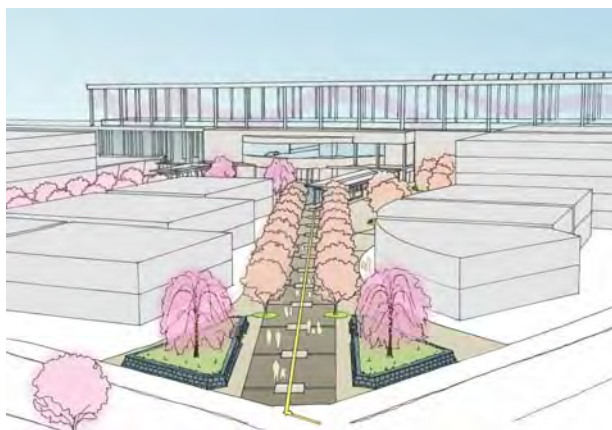


図-41 西口植栽イメージ

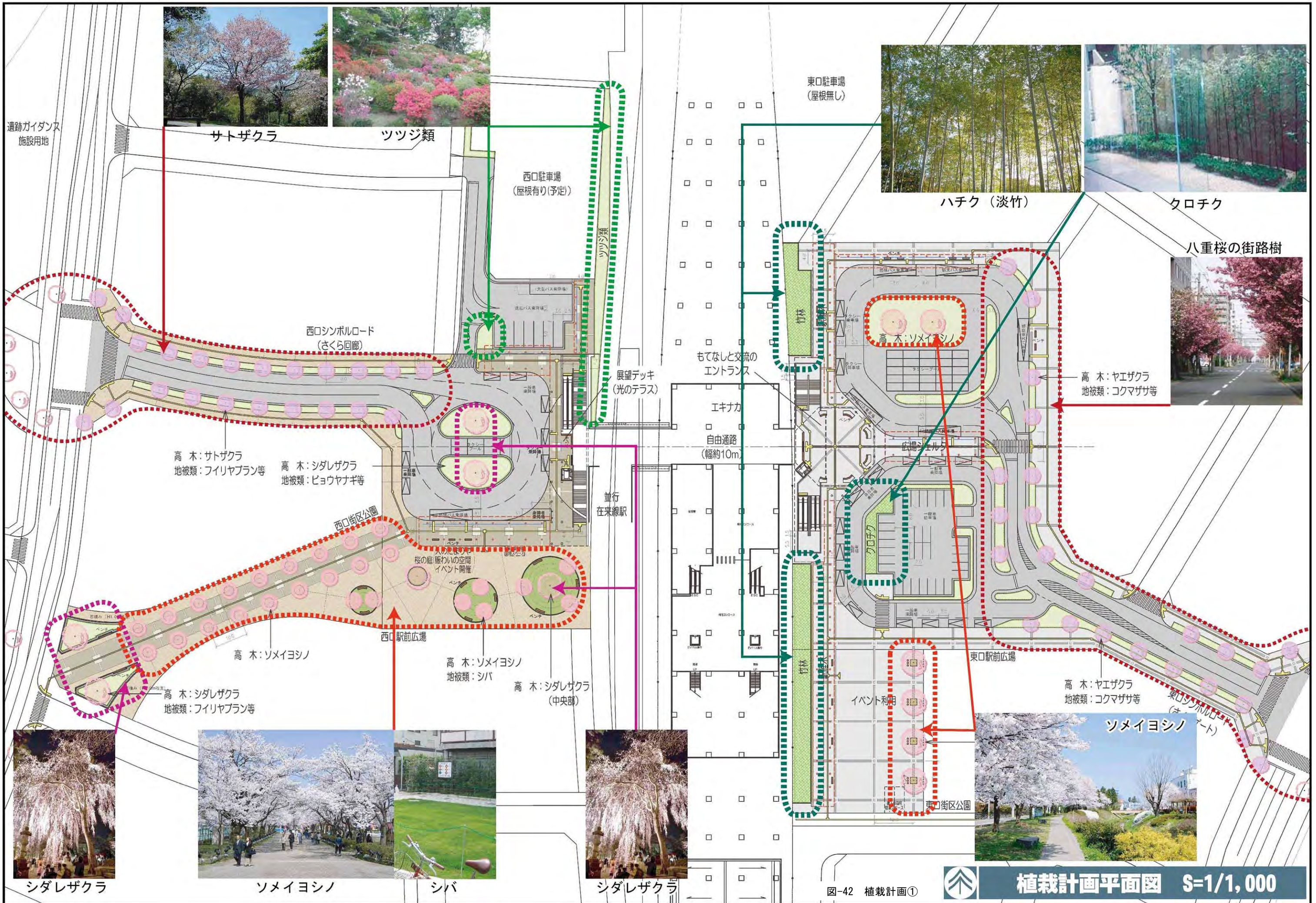


表-2 サクラ、低木及び地被類の開花時期

場所	樹種	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
東口	高木	カンヒザクラ(ヨウコウ)			■									
		エドヒガン(ソメイヨシノ)				■	■							
		ヤエザクラ(カンザン)				■	■							
	低木	ジンチョウゲ			■	■	■	■	■	■	■	■	■	■
		ハクチョウゲ					■	■	■	■	■	■	■	■
		コクチナシ							■	■	■	■	■	■
		アベリア								■	■	■	■	■
	地被・笹類	シバ												
		ハチク												
		クロチク												
コクマザサ														
西口	高木	エドヒガン(シダレザクラ)			■	■								
		エドヒガン(ソメイヨシノ)				■	■							
		サトザクラ(イチヨウ)				■	■							
	低木	オオムラサキ					■	■	■	■	■	■	■	■
		サツキツツジ						■	■	■	■	■	■	■
		アベリア							■	■	■	■	■	■
		キンシバイ								■	■	■	■	■
	地被類	ヒペリカム・カリシナム												
		オオキンケイギク												
		フィリヤブラン												
シバ														

■花と香りで来訪者をもてなす植栽

・東口の無彩色な空間に合う白系の花を付け、花だけでなく、香りで来訪者をもてなす植栽

写真上：ジンチョウゲ
写真中：ハクチョウゲ
写真下：コクチナシ



■夏から秋に彩りを添える植栽

・コクチナシと同時期に白系の花を付け、花期を長く楽しむ植栽：アベリア



■夏の緑に彩りを添える植栽

・釜蓋遺跡への多くの来訪者が見込まれる夏期に、深い緑に彩りを添える立体的な黄色の植栽

写真左：ヒペリカム・カリシナム
写真中：ビョウヤナギ、写真右：キンシバイ



■サクラに続いて空間に華やかさを与える植栽

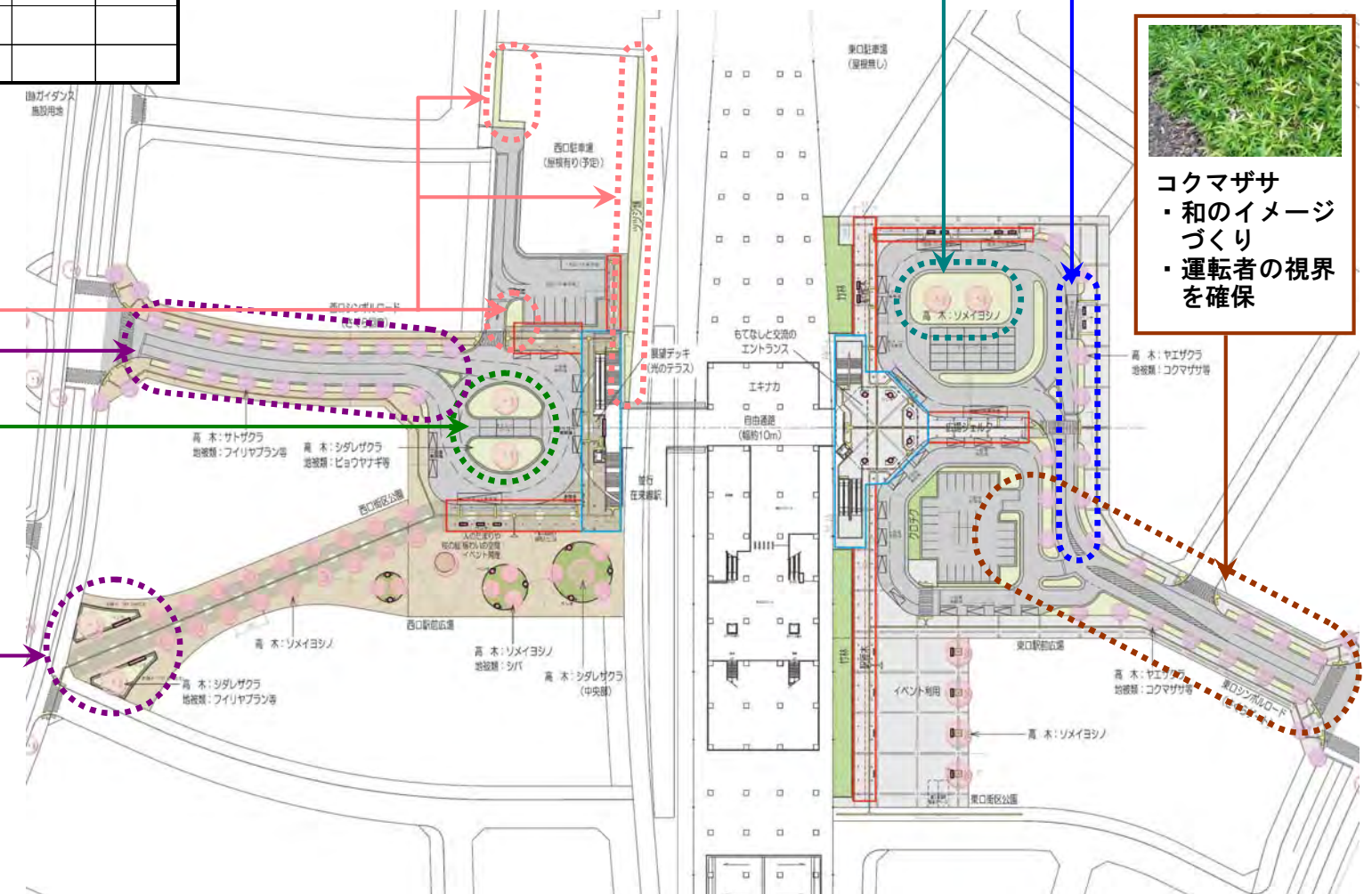
・サクラの華やかさを引き継ぎ、アースカラーの広場空間に華やかさを与える植栽：ツツジ類



■風にそよぎ、自然を感じさせる植栽

・自然を感じながら釜蓋遺跡へと来訪者を誘導する、花や葉が風にそよぐ植栽

・写真：フィリヤブラン
アベリアの高低配列で植栽し、立体感を演出する



コクマザサ
・和のイメージづくり
・運転者の視界を確保



図-43 植栽計画②

5-4.サイン計画

◆基本的な考え方

- 誰にも分かりやすいサインとする
- 必要な情報を分かりやすく提供するため、ピクトグラム等を用いた簡潔なサイン盤面とする
- 主要動線の分岐部に総合案内サインを、公共交通の乗降場及び身障者乗降場にピクトグラムを、歩行者動線の分岐部や起点に誘導サインを配置し、動線の連続性を確保する
- 人の通行に支障しないシンプルな形状としつつ、人の目に付きやすいよう、アクセントとなる色を加える（過年度検討より、青、純白、桜色、緑、黄金より選択。明度差を付け、分かりやすいサインとする）
- 各サインには駅舎や駐車場の方向だけでなく、誘導する施設までの距離や周辺市街地の状況も示すなど、利用者の利便性に配慮した内容とする

次ページ以降に、サイン配置及びサインデザインを示す。

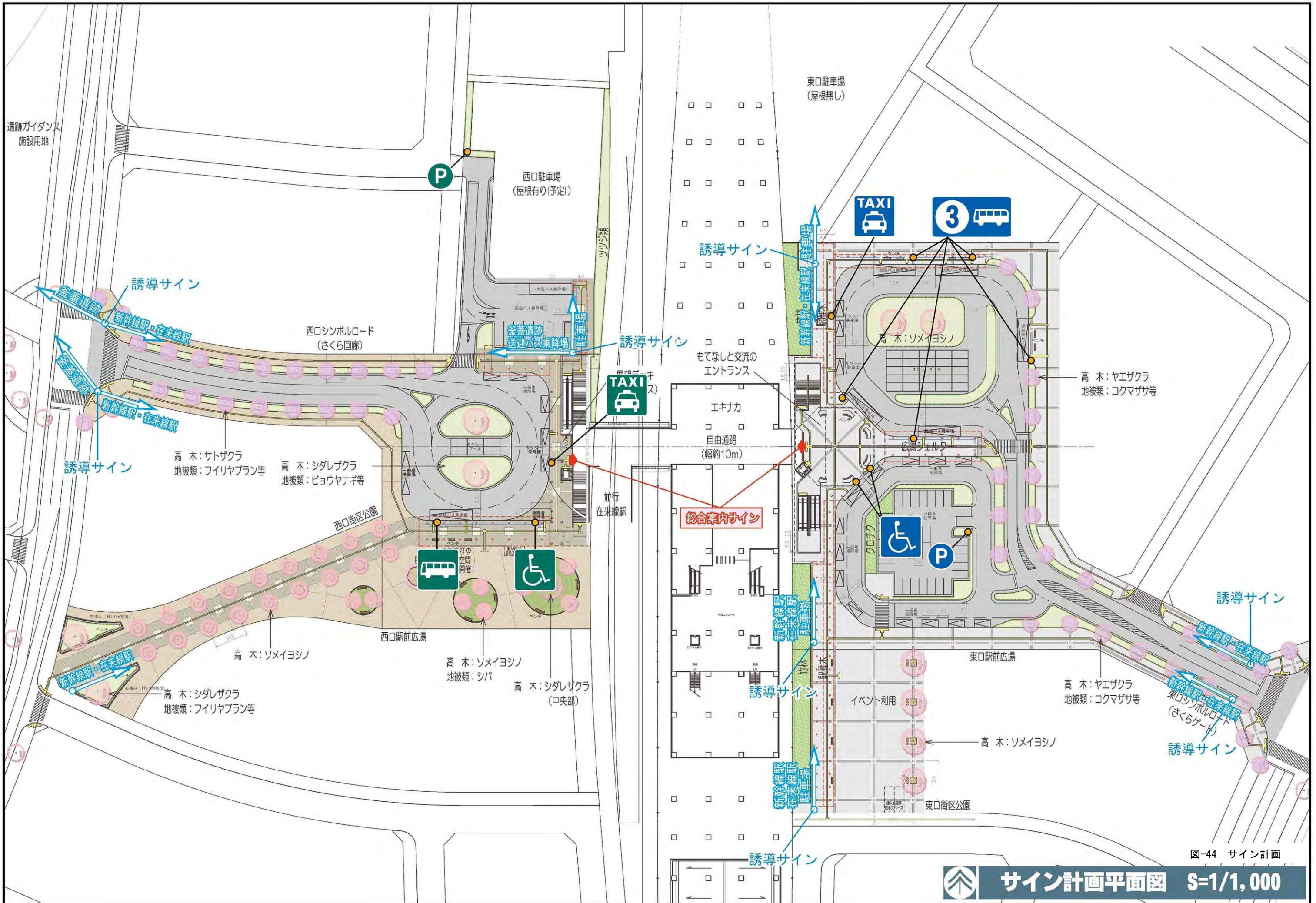
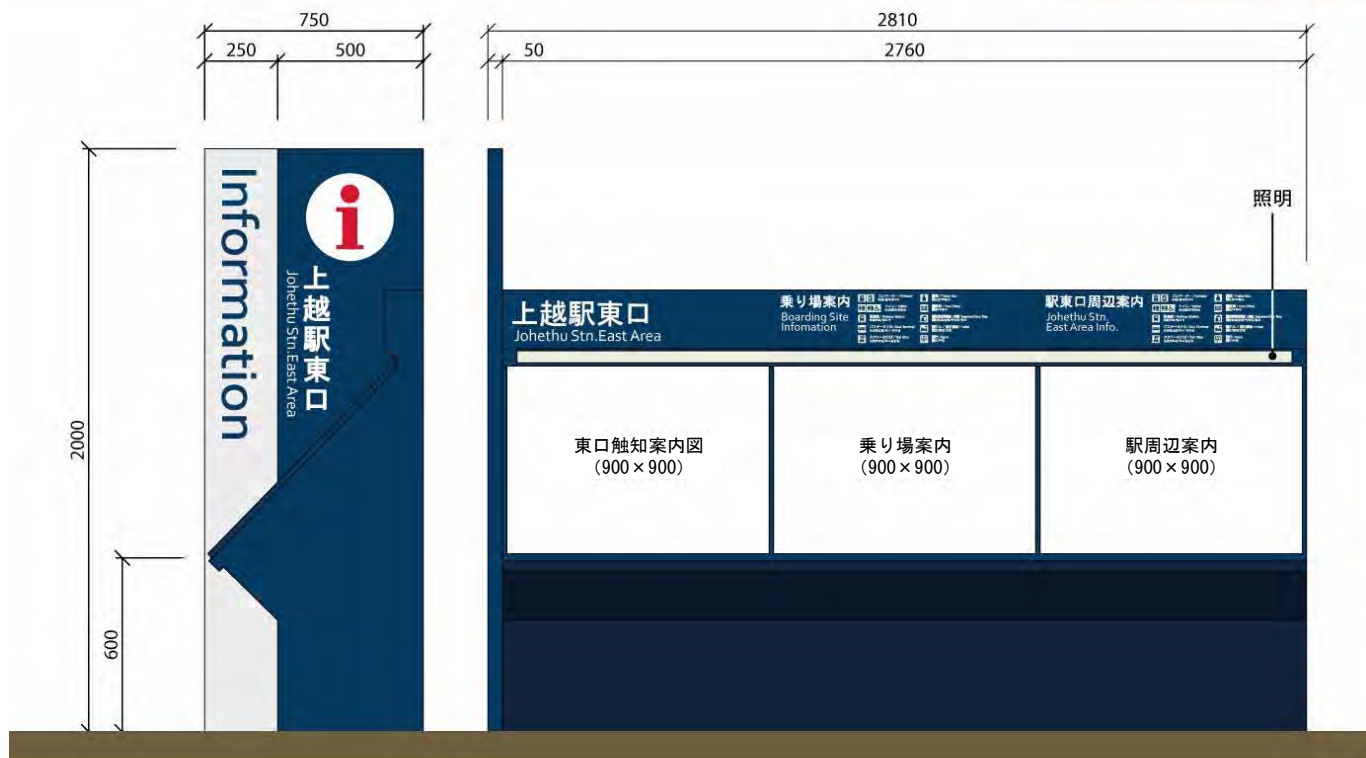


図-44 サイン計画

サイン計画平面図 S=1/1,000

東口サイン姿図

総合案内サイン

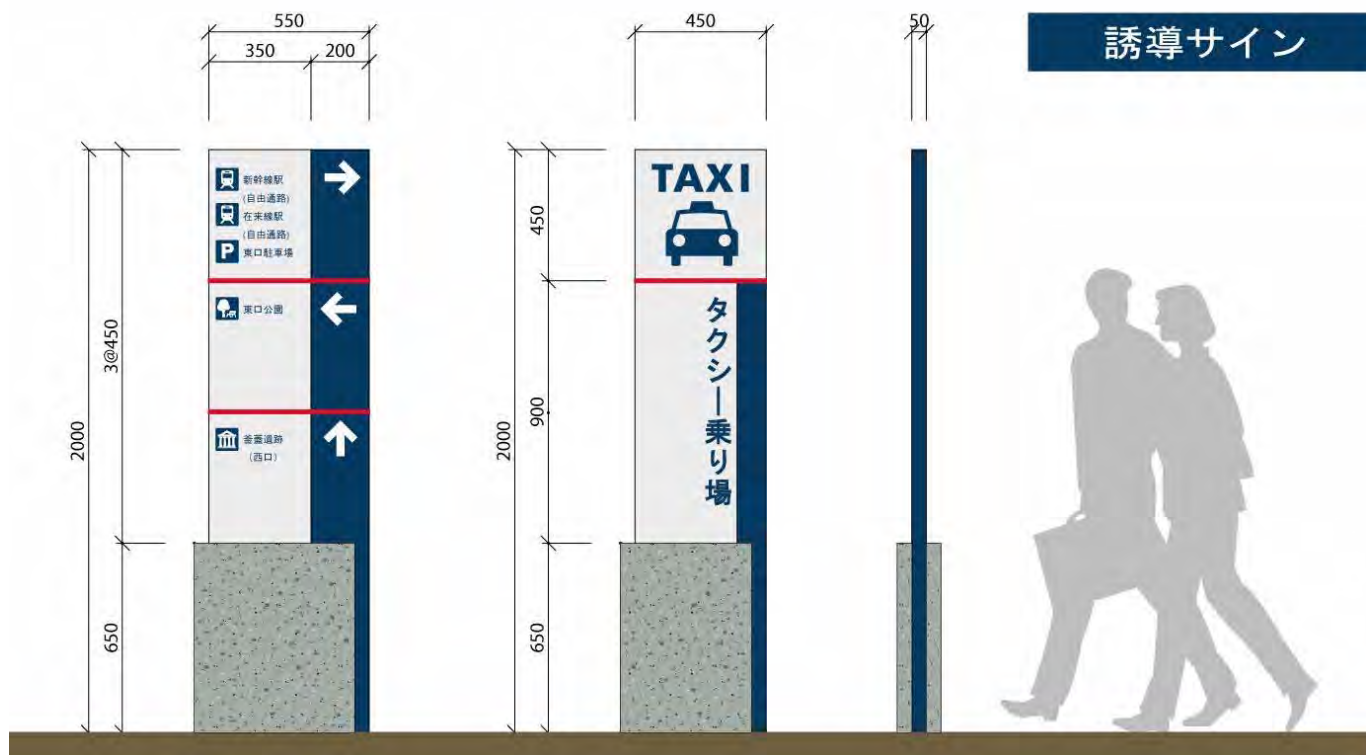


西口サイン姿図

総合案内サイン



誘導サイン



誘導サイン



- 無彩色を基本とする東口においては、基本色として紺色を用い、無彩色の空間内で人の目に付くよう、ラインなどに赤（紅色）を用いる
- サインの足もとには、千草石を用いた修景を行う

- アースカラーを基本とする西口においては、基本色として濃い緑（松葉色）を用い、無彩色の空間内で人の目に付くよう、ラインなどに赤（紅色）を用いる
- サインの足もとには、千草石を用いた修景を行う

図-45 サインデザイン

5-5.照明計画

◆基本的な考え方

■ベース照明

- 駅前空間の利用者（車）の安全性を確保するため、車道の屈曲部や合流地点、歩行者の主要動線上にベースとなる照明を配置する
- 照明配置は歩車道の境界部への配置が効率的であるが、施設計画より歩車道境界は概ねシェルターが配置されることから、シェルターが配置される場所については広場内の交通島に配置する
- シェルターや駅構内は天井面へのダウンライトの配置や、天井面を照射するライトアップ照明を配置し、必要な照度を確保する
- 西口駅前広場のベース照明は、テラス空間（展望空間）からの山並みや桜への視界を阻害しないよう、来訪者の視点より低い位置に器具を配置する
- 低消費で長寿命という利点を生かし、長期的なコスト管理の視点、環境の視点から、LED照明を適切・効果的な場所に積極的に取り入れる。ただし、短期的には高価格であり初期投資がかかることから、予算との見合いのなかで取り入れる範囲や場所については検討する

■修景用照明

- 東口駅前広場は、駅前空間の拠点となるドームを美しくみせることを目的とした照明とし、行灯のような柔らかな灯りを確保する（新幹線駅舎側の照明計画との調整が必要）
- 西口駅前広場は、来訪者に夜桜の美しさを提供するため、シダレザクラを中心としたライトアップ照明を配置する。特にシダレザクラへのライトアップは、近接するシェルターに機器を配置することで、テラス空間(展望空間)からの視点に対して、圧倒的な存在感を演出する

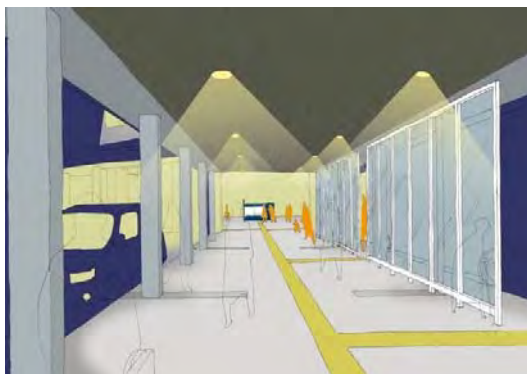
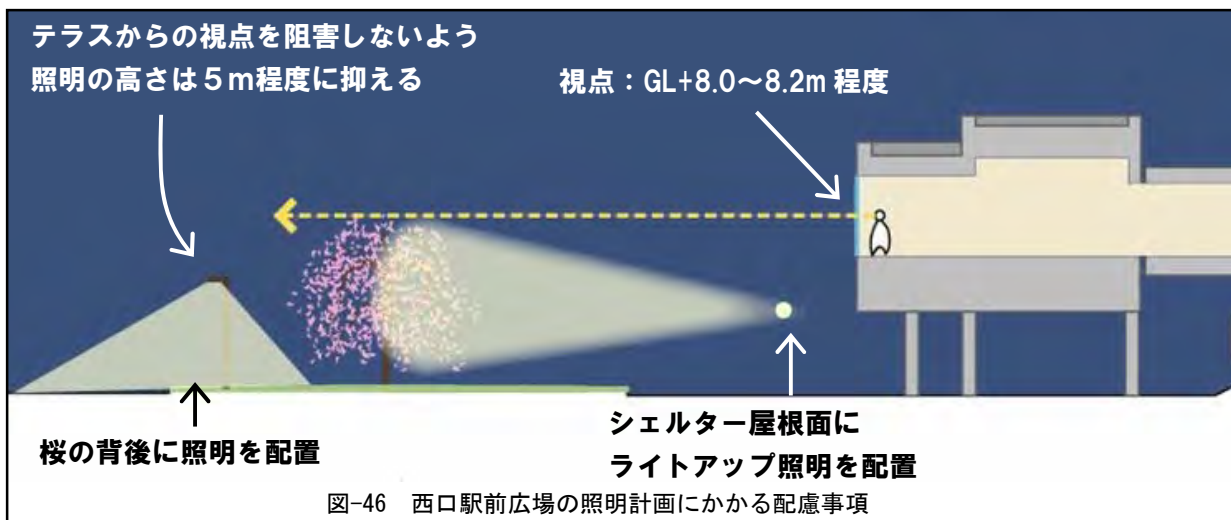


図-47 シェルターA下の照明イメージ

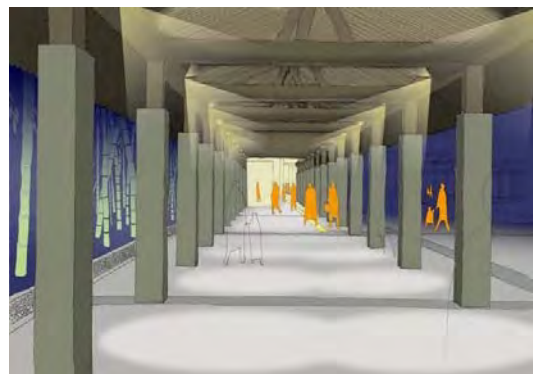


図-48 駅構内下の照明イメージ



図-49 東口昇降施設（ドーム）の照明イメージ

- ・行灯のような灯りで、夜景も記憶に残るような空間を形成する

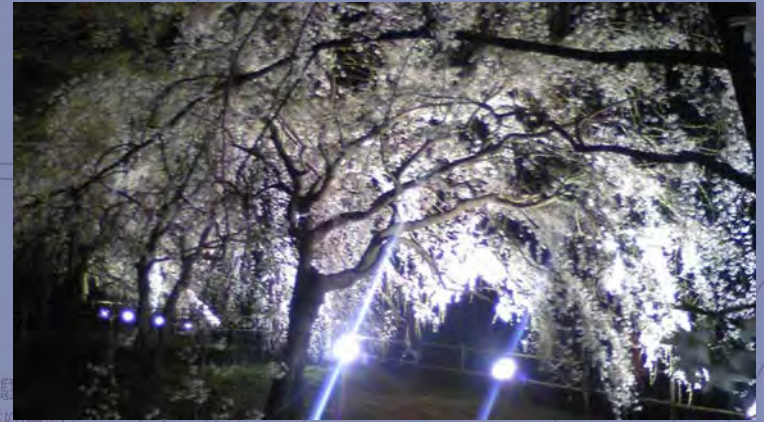


図-50 西口昇降施設（テラス空間）の照明イメージ

- ・シダレザクラのライトアップを強調するため、施設自体の華やかなライトアップは行わない



西口の主役はサクラ、夜はライトアップにより
幻想的な空間を形成する



シェルター屋根面からシダレザクラをライトアップ



東口の主役はドーム
行灯のような柔らかな灯りで
和のイメージを形成



ソメイヨシノは路面からのライトアップ



サクラの開花時期は明るさを抑え、ライトアップ効果を強調
開花時期以外は、ベース照明として点灯

ベンチ下部に照明器具を配置し、灯りを確保

図-51 照明計画

照明計画平面図 S=1/1,000



図-52 東口鳥瞰イメージ

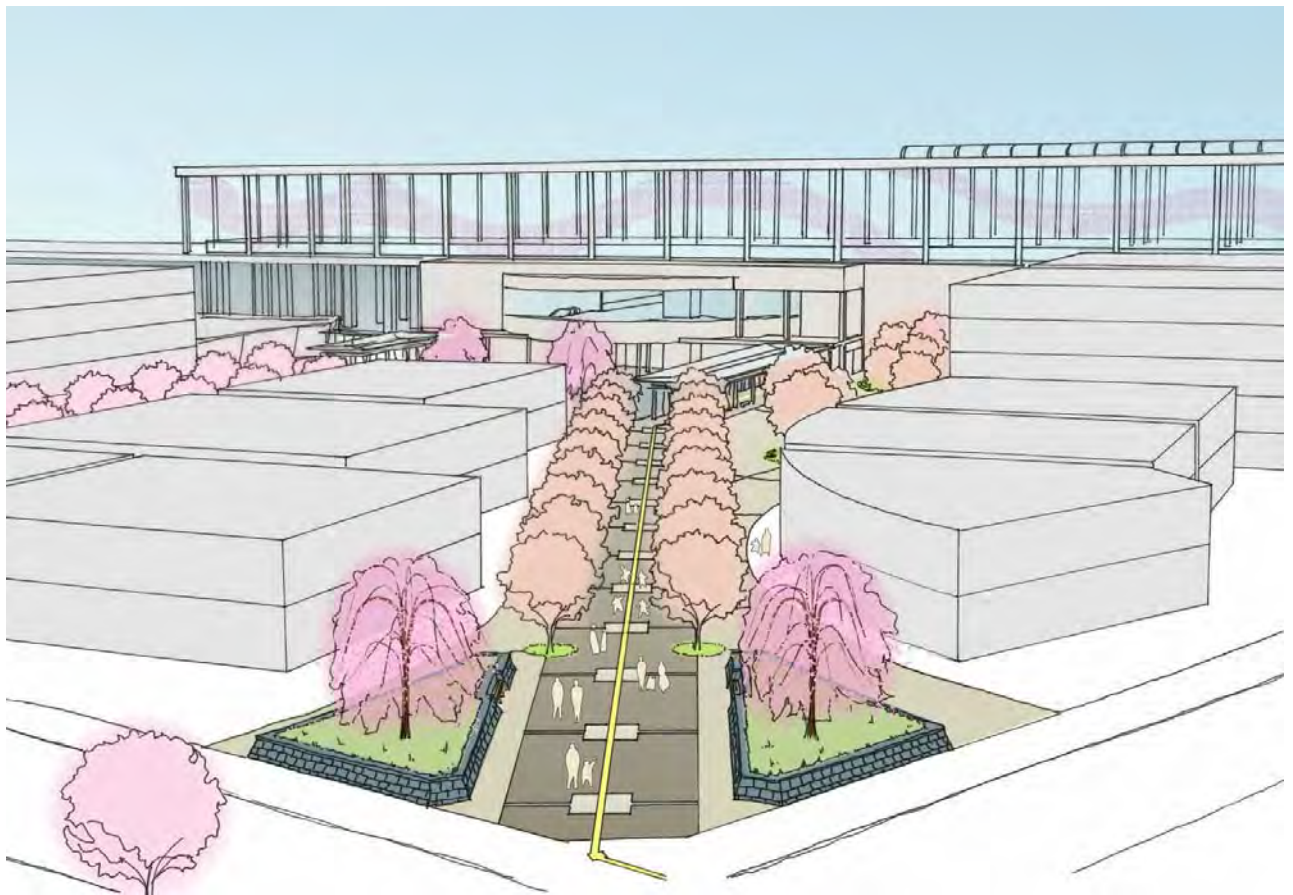


図-53 西口鳥瞰イメージ

5-6.自由通路・エキナカ計画

◆基本的な考え方

■エキナカ空間の基本コンセプト、導入機能と配置の関連について

○基本コンセプト

“五感で地域を味わいつくす”を基本コンセプトとし、導入機能の配置については、効果的な配置とその仕掛けを展開する。

○仕掛けと配置の考え方

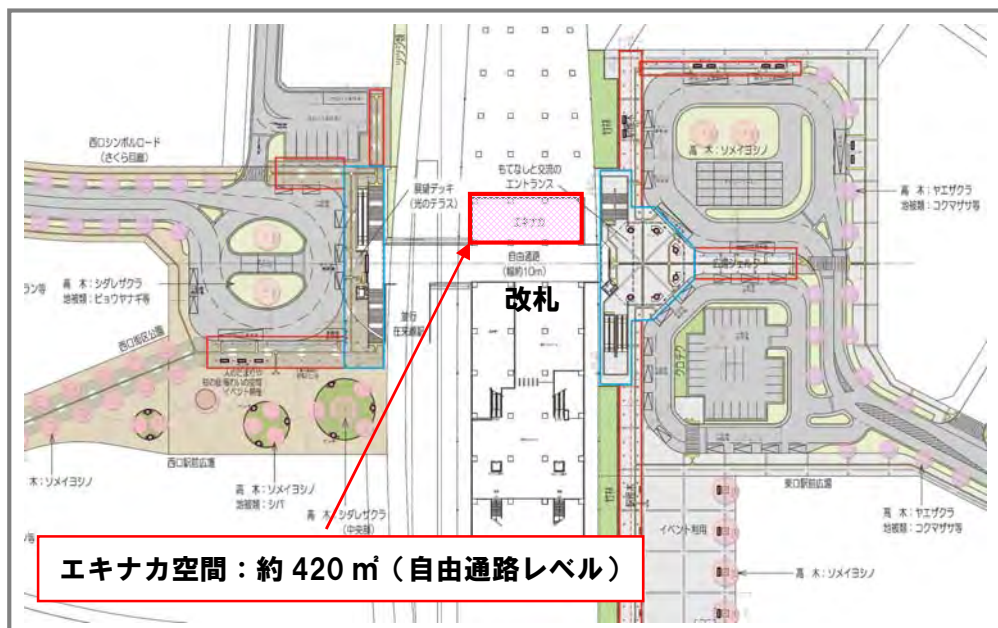
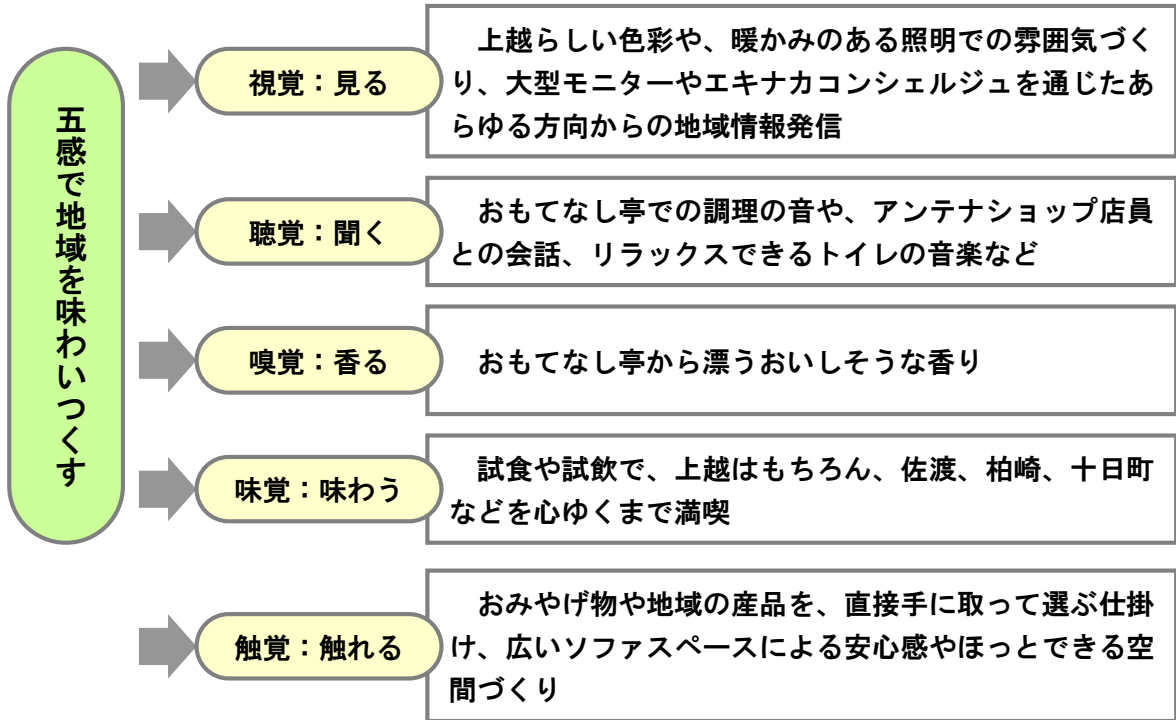


図-54 駅空間の中での“エキナカ空間”の位置

■エキナカ空間に配置する機能

①エキナカ・コミュニティトイレ

- ・鉄道利用者だけでなく、地域住民や市民が自由に利用できるトイレ
- ・一般用トイレ、多目的トイレ、多目的ルーム、パウダーコーナー



②上越エキナカコンシェルジュ

- ・上越地域の観光や歴史文化情報など、様々な地域情報を3D情報で発信
- ・観光・宿泊情報、交通情報、歴史文化情報、地元製造品・商品情報、おすすめ情報、企業CMなど
- ・情報端末（パソコン）、携帯用情報端末（電子ポスターなど）
- ・パンフレット、ポスター掲示スペース



③上越おもてなし亭（飲食コーナー）

- ・カフェメニュー、お茶と和菓子、お酒とスル天など、上越、妙高、佐渡、十日町、柏崎それぞれのオリジナルメニュー、連携したメニューなど、この地域でしか食べられないものを、早く、易く、おしゃれに提供
- ・季節毎に商品を変更したり、イベント的に商品を提供するなど、運営を工夫



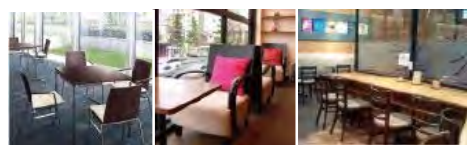
④上越エキナカアンテナショップ

- ・ビジネス客や旅行者が帰り際にお土産を買える物産コーナー
- ・飲食コーナーで気に入った土産物の購入、後日の取り寄せサービスなどの工夫



⑤コミュニティスペース（待合所）

- ・乗り換えや送迎時の空き時間を快適に過ごせるスペース
- ・天井からディスプレイを吊し、地域情報を発信
- ・カウンター席（モニター、電源含む）、イス席、テーブル席

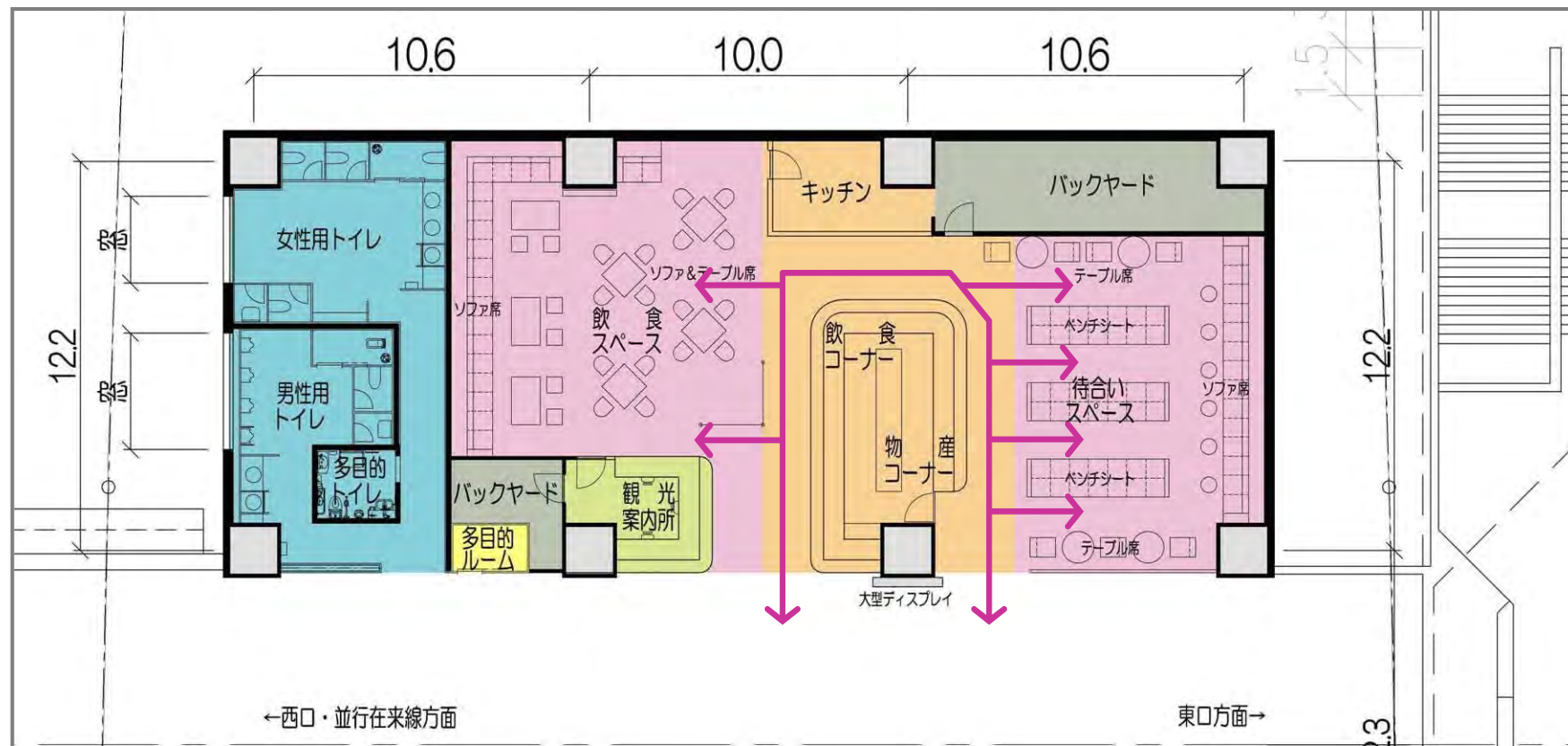


平面レイアウト

- ・物産コーナー重視案
- ・飲食・待合いコーナー重視案
（各案平面レイアウトは次頁）

注) エキナカ空間については、現在 JR 東日本旅客鉄道株式会社及び独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構と協議中であり、使用する範囲や施設内容に関する詳細計画は今後精査して決定する。

また、本構想において検討を行ったエキナカ空間は、自由通路前の空間が全て利用可能な場合を前提とした整備イメージである。



物産コーナー重視案

- ・ 来訪者に対して、上越市並びに周辺市町村のアピール力を強めるため、物産コーナーを中心に配置
- ・ エキナカ中央で試飲試食が楽しめ、その風景が新幹線改札口真正面に見える（人の目に触れやすい）
また東口、西口双方からの利用者にも利用しやすい回遊性の有る動線がメイン動線となり、メイン動線から、分岐する形で各待合いスペースを利用
- ・ コミュニティスペース
おもてなし亭西側は、物産等の飲食利用や、ゆったりと新幹線を待つ観光客などに配慮した、ソファ・テーブル席で構成
おもてなし亭東側は、待ち合わせの学生など、比較的短時間利用を対象とし、ソファ、テーブル、ベンチシートなど多様な利用へ対応

図-56 エキナカ計画平面図（飲食・待合いコーナー重視案）

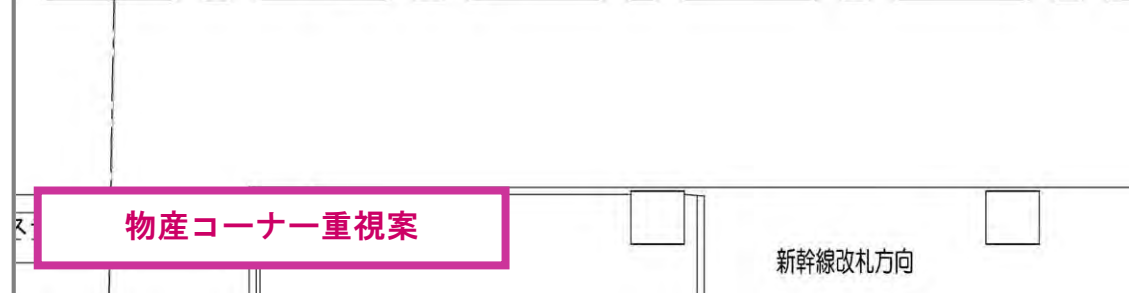
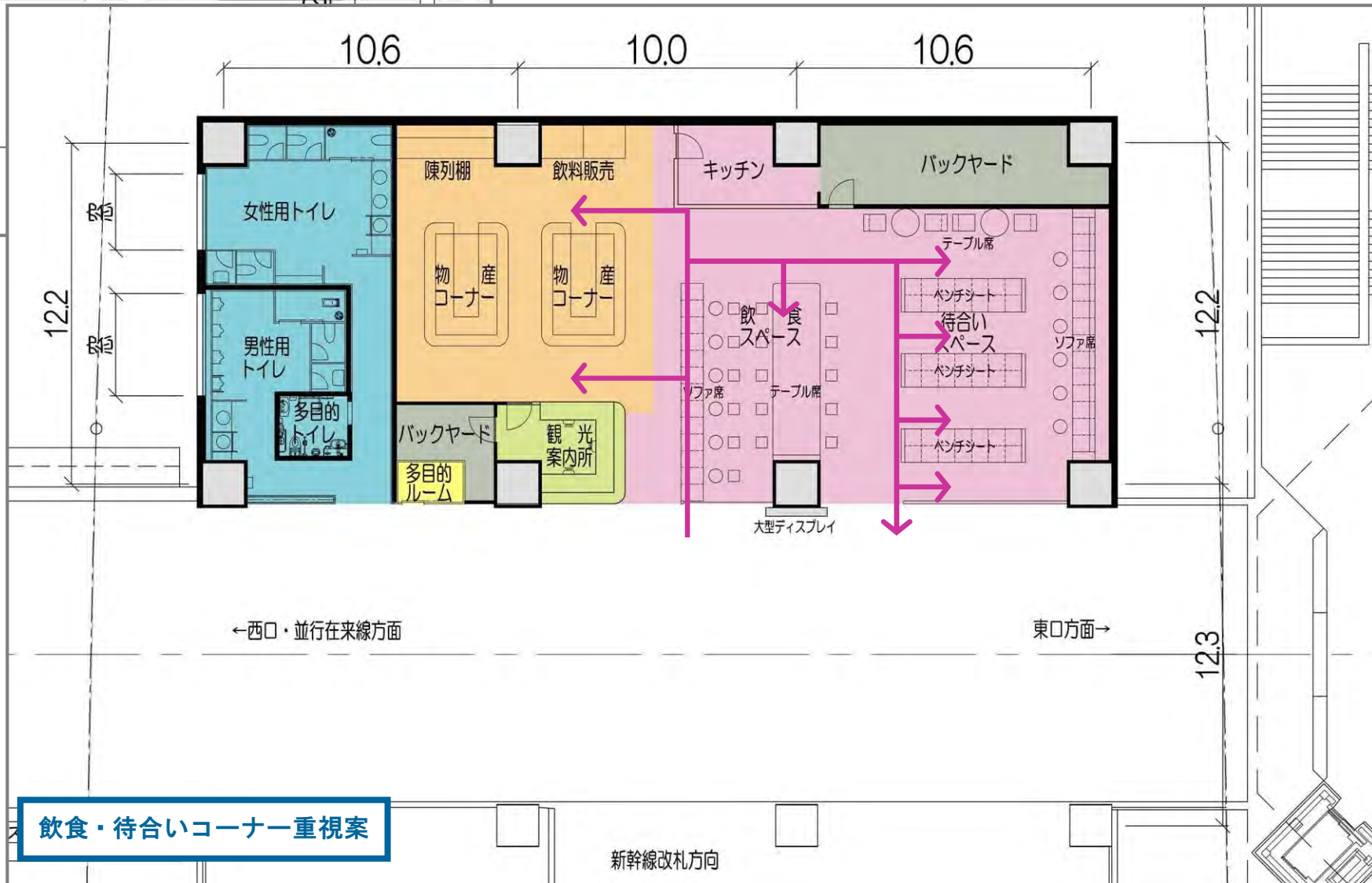


図-55 エキナカ計画平面図（物産コーナー重視案）

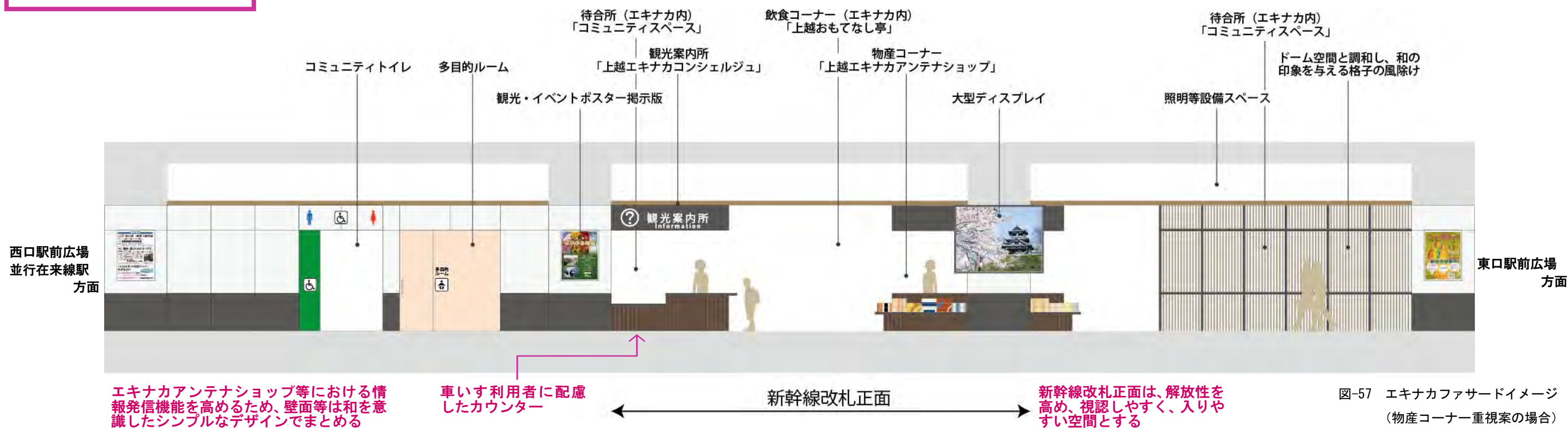
飲食・待合いコーナー重視案

- ・ 来訪者がゆっくりと休める空間を中心とするよう、コミュニティスペースを一体的に配置
キッチンに近い中央には、飲食に対応するテーブル席、ソファ席を配置
- ・ 東側は、待ち合わせの学生など、比較的短時間利用を対象とし、ソファ、テーブル、ベンチシートなど多様な利用へ対応
- ・ 観光案内所奥側におもてなし亭を配置し、案内所カウンター越しに、試飲など、地域物産を楽しむ姿を見せる
- ・ 新幹線正面通路がメインの動線となり、各利用者が物産や待合いへ分岐する



飲食・待合いコーナー重視案

物産コーナー重視案の場合



エキナカアンテナショップ等における情報発信機能を高めるため、壁面等は和を意識したシンプルなデザインでまとめる

車いす利用者に配慮したカウンター

新幹線改札正面は、解放性を高め、視認しやすく、入りやすい空間とする

図-57 エキナカファサードイメージ (物産コーナー重視案の場合)

- 自由通路の天井には木材ルーバーを使用し、ドームの特徴的な木組みとの調和や和のイメージづくりを図るとともに、空調等設備類の目隠し修景を行う
- 自由通路壁面には丸窓を配置し、西口駅前広場との連続性を表現し、駅と西側市街地との一体感の創出を図る
- カウンターや手摺りなど人の手に触れる場所には木材を使用し、暖かみを感じられる空間とする
- エキナカや自由通路の壁面や床面は、全体的に無彩色と木の格子を組合せた落ち着いた空間とし、エキナカで販売される産品や、それらを味わう来訪者の楽しむ姿を演出する (落ち着いた色彩と間接照明による効果的な演出、和の印象づくり等)
- 大型モニターなどを設置し、ビジネス客や観光客への積極的な情報提供を行う



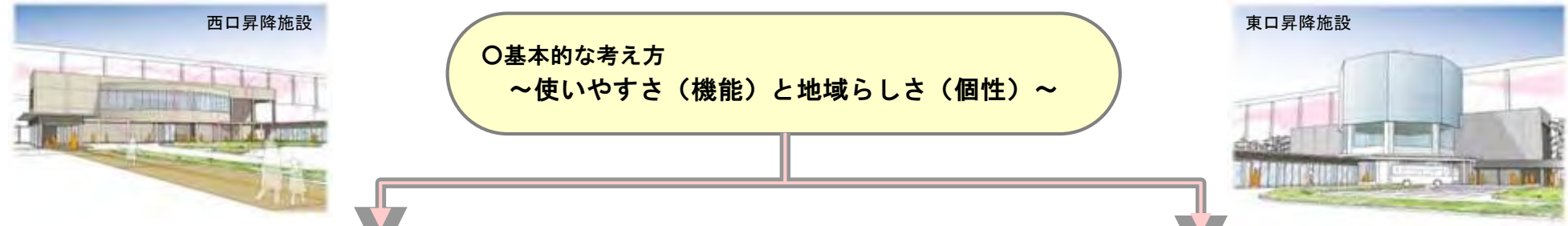
物産コーナー重視案の場合



図-58 エキナカ及び東西自由通路整備イメージ (物産コーナー重視案の場合)

5-7.色彩計画

◆基本的な考え方



■西口■
 サクラや遺跡、背景となる妙高山などの山並みや自然

■東口■
 特徴的なドームと雁木、背景となる建築物

西口：自然的な要素との調和や自然に包まれた暖かみ
アースカラーを主体とした空間づくりにより、
 周辺環境との一体化を目指す

東口：ドーム空間のシンボル性や駅雁木の暖かみ
無彩色を主体とした空間づくりにより、
 ドームや駅雁木を引き立たせる

- 施設計画
 - ・自由通路昇降施設は広場内で大きな存在となることから、アースカラーでまとめ、落ち着いた空間づくりを目指す
 - ・ベンチなどには自然の色、地域の色として、くびき石を使用
- 舗装計画
 - ・アースカラーを用い、妙高山への軸線を強調するなど、自然との連携に配慮した色の使い方
- 植栽計画
 - ・植栽の緑が昇降施設や舗装のアースカラーと調和
 - ・サクラによる特徴づくりと、サクラ以外の季節における花による彩りの演出
- サイン計画
 - ・アースカラー中心のシンプルな空間の中で人の目に付きやすく、周辺の色彩とも調和する濃い緑色を採用
- 照明計画
 - ・周辺施設と調和するよう、濃い茶系の照明とする
 - ・間接照明などの工夫による、雰囲気と迷わない空間づくり

- 施設計画
 - ・自由通路昇降施設は、ドームを引き立たせ、駅雁木と調和するよう無彩色でまとめる
 - ・駅雁木に使用する木や、夜のドーム照明の温かみを感じさせる
 - ・ベンチなどには自然の色、地域の色として、くびき石を使用
- 舗装計画
 - ・施設計画と同様、無彩色とし、駅雁木の柱や視覚障害者用誘導ブロックの配置とも調和するようなグリッド状の色の配置
- 植栽計画
 - ・サクラによる特徴づくりと、サクラ以外の季節における“白”を基調とした落ち着いた空間づくり（色よりも香りでもてなす）
- サイン計画
 - ・無彩色中心の落ち着いた空間の中で人の目に付きやすく、周辺の色彩とも調和する濃い青色を採用
- 照明計画
 - ・周辺施設と調和するよう、グレー系の照明とする
 - ・間接照明などの工夫による、雰囲気と迷わない空間づくり

○共通事項
 ・「上越市環境色彩ガイドライン」の色彩基準への適合

- エキナカ・自由通路
 - ・自由通路は、ドームの特徴的な木組みとの調和、和の印象づくりに向けて木を用いた空間
 - ・エキナカや自由通路は全体的に無彩色と木の組合せによる落ち着いた空間とし、エキナカで販売される商品や、それらを味わう来訪者の楽しむ姿を演出する（落ち着いた色彩と間接照明による効果的な演出など）

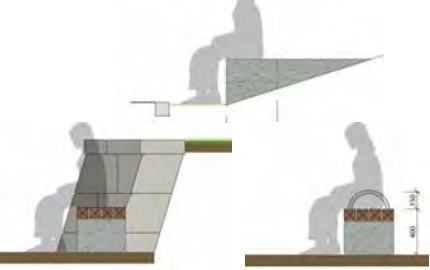
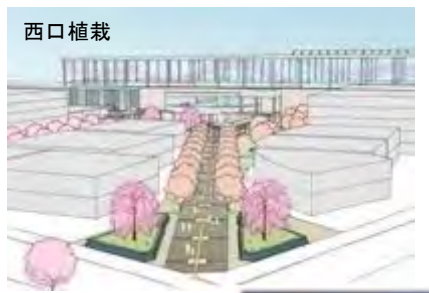
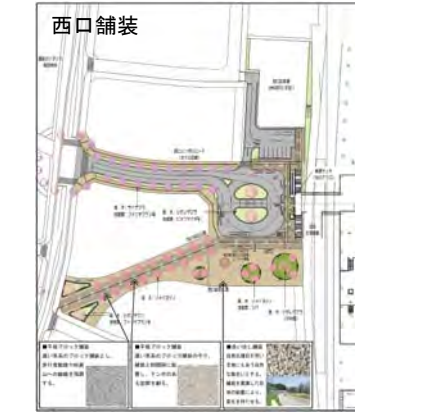
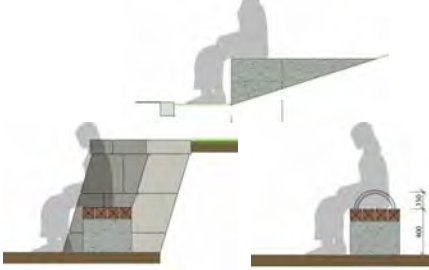


図-59 色彩計画

6.新幹線駅舎デザイン

鉄道・運輸機構北陸新幹線建設局からの駅舎デザイン提案（3案）があったうち、本構想（都市施設）との調和の観点から、次の案を推奨した。

【デザインコンセプト】：「さくらと雪の平原」 ～心地よい軽やかさと繊細さ～

- ・高田公園に舞う桜と高田平野の雪景色をテーマとしています。
- ・ガラス面には桜吹雪や雪原をイメージさせる模様をプリントし、化粧方立てには桜色のパネルを連続的に緩やかな曲線状に並べることで、風に舞う桜の花びらを表現しています。
- ・ホーム中央部からは駅前広場の様子が良く見渡せ、ダイナミックな構成で企画されている都市施設と調和されたデザインとなっています。



図-60 駅舎デザイン案（東側。街区公園より望む。出典：独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構）



図-61 駅舎デザイン案（東側。駅前広場北側より望む。出典：上越市作成）



図-62 駅舎デザイン案（西側。シンボルロードより望む。出典：上越市作成）

参考：まちなみ検討会議における駅舎デザインの選定理由

1 市民意見募集結果

○次の2点についてアンケートの結果、A案を支持する意見が最も多かった。

- ① 上越らしさ・・・良いの評価（A案 76.8%、B案 38.7%、C案 29.2%）
- ② 公共空間との調和・良いの評価（A案 70.1%、B案 40.2%、C案 32.6%）

2 まちなみ検討会議の検討結果

○機能面、デザイン面の双方において、A案が最も優れているとの評価であった。

○まちなみ検討会議の全委員がA案を支持した。

【機能面での評価】

(1) 明るさ

- ・ ホームから見たとき、A案が最もガラス面から採光できて明るくなる。B案やC案だと採光がデザインに邪魔されてしまう。
- ・ 駅の真ん中の100メートルくらい両側が明るくなり、合わせてトップライトも設けることで、北陸新幹線の駅の中で一番明るい雰囲気駅になる。

【デザイン面での評価】

(2) 都市施設との調和

- ・ 長年使っていく施設であり飽きがこなくてよいし、都市施設と調和する。
- ・ 駅はシンプルなほうが、都市施設の違いで印象を変えることができる。
- ・ 都市施設側で十分考慮している（ため、駅は主張しないほうがよい）。

(3) 地域性・独自性

- ・ 「雪」と「桜」は地域のブランドである。
- ・ Aが一番上品で気品があっている。
- ・ インテリア側から見て、ガラスを通してまちが見え、そのガラスにいろいろな情報が入っているのは、なかなか日本でもユニークな駅になる。

3 総合評価

○市では、市民意見募集結果やまちなみ検討会議からの答申を受け、3案のうち、圧倒的に評価の高かった「A案」を推薦するとともに付帯意見を付して鉄道・運輸機構へ回答した。

なお、駅舎デザイン案については、まちなみ検討会議において次の意見を付した。

付帯意見

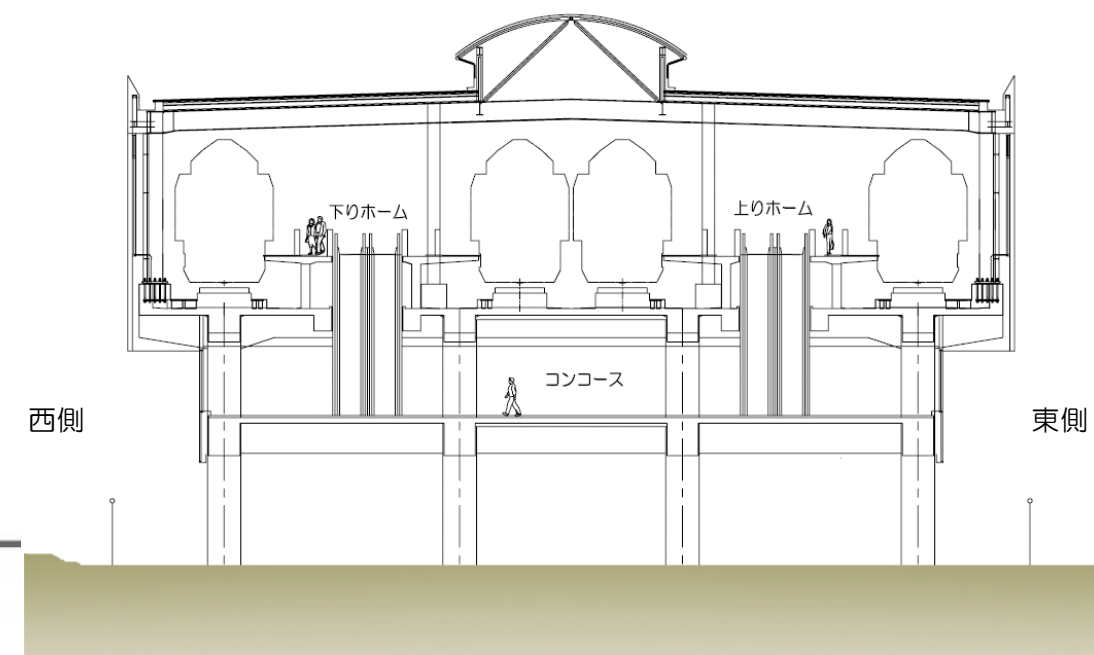
- ① 駅舎の整備にあたっては、昇降施設や駅前広場など、他の公共施設との調和や連続性に十分配慮する。
- ② 内部空間は、地場産材の使用や色彩の工夫などにより「上越らしさ」や「暖かみ」が感じられるものとする。
- ③ ガラス面へのプリントは、高いデザイン性を確保するとともに、鉄道・運輸機構と市が協力しながらデザインを決定する。

【A案】…『さくらと雪の平原』 心地よい軽やかさと繊細さ

駅と自由通路の考え方
＜繊細な構成による調和＞

風抜き方式
＜上部ガラリ＞

都市側コンセプトとの調整
＜上越らしさの表現 『さくら、雪の平原』＞



中央部断面図

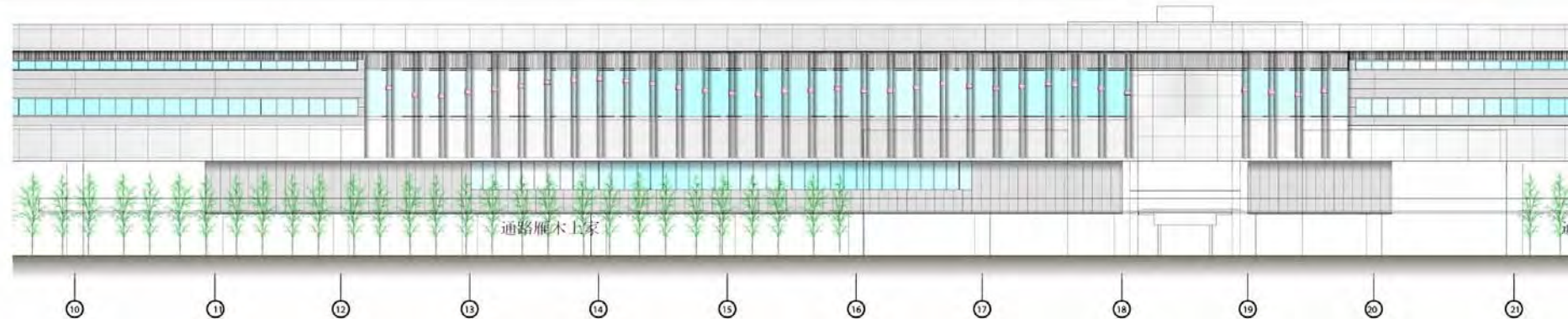
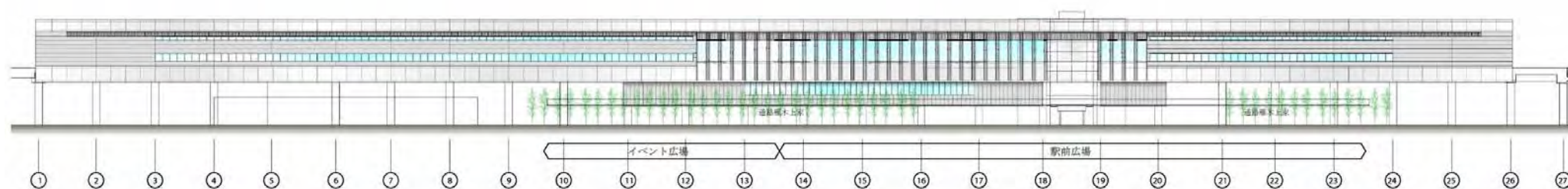


図-63 駅舎デザイン案に関する資料（出典：鉄道・運輸機構）

7.ユニバーサルデザイン計画

◆基本的な考え方

- ・各種施設の設計において、建築物については「公共建築物ユニバーサルデザイン指針」（平成19年3月、上越市）に基づき、建築物以外の施設については、バリアフリー化を基本としつつ、当該指針の趣旨を踏まえた配慮を行い、誰もが利用しやすい空間づくりを行う。

〈関連する基準等〉

- ・公共建築物ユニバーサルデザイン指針（平成19年3月、上越市）
 - ・新潟県ユニバーサルデザイン推進基本指針（平成16年5月、新潟県）
 - ・改定版道路の移動等円滑化整備ガイドライン（平成20年2月、財団法人国土技術研究センター）
 - ・ユニバーサルデザインによるみんなのための公園づくり（都市公園の移動等円滑化整備ガイドラインの解説）（平成20年2月、社団法人日本公園緑地協会）
 - ・公共交通機関の旅客施設に関する移動等円滑化整備ガイドライン（バリアフリー整備ガイドライン（旅客施設編））（平成19年7月、国土交通省） など
- 駅舎や昇降施設などの建築物でのユニバーサルデザイン例
- ・段差を識別しやすい段鼻と周囲の色の区分。高さの異なる2段の手摺り、トイレのオストメイト対応。ガラス面への衝突防止の工夫 など
 - ・エレベーター、エスカレーター周辺における音声案内の設置 など
- 舗装やサインなどの広場内施設でのユニバーサルデザイン例
- ・舗装：段差のない平坦な仕上げ。滑りにくい舗装材。透水性舗装。視覚障害者誘導用ブロックに配慮した舗装パターン など
 - ・サイン：直感で分かるピクトグラム。明度差を付けた分かりやすい色彩。多言語表示 など
 - ・排水施設：杖や車いすのタイヤが落ち込まない構造。濡れても滑らない素材・仕上げ など

〈ユニバーサルデザインの例、出典：国土交通省大臣官房 官庁営繕部 整備課 HP〉



写真-14, 15 二段の手摺り、手摺りの端部処理



写真-16, 17 乳幼児用の別途やオストメイト等

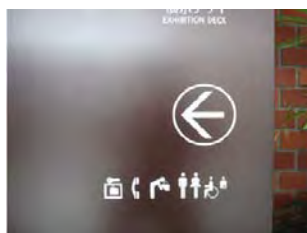


写真-18, 19 ピクトグラムや多言語の表示

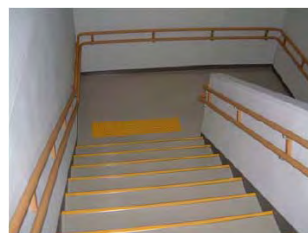
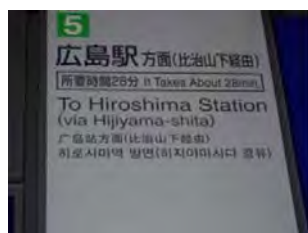


写真-20, 21 分かりやすい階段、LED内蔵ブロック

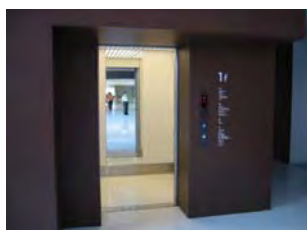


写真-22, 23 音声による案内設備



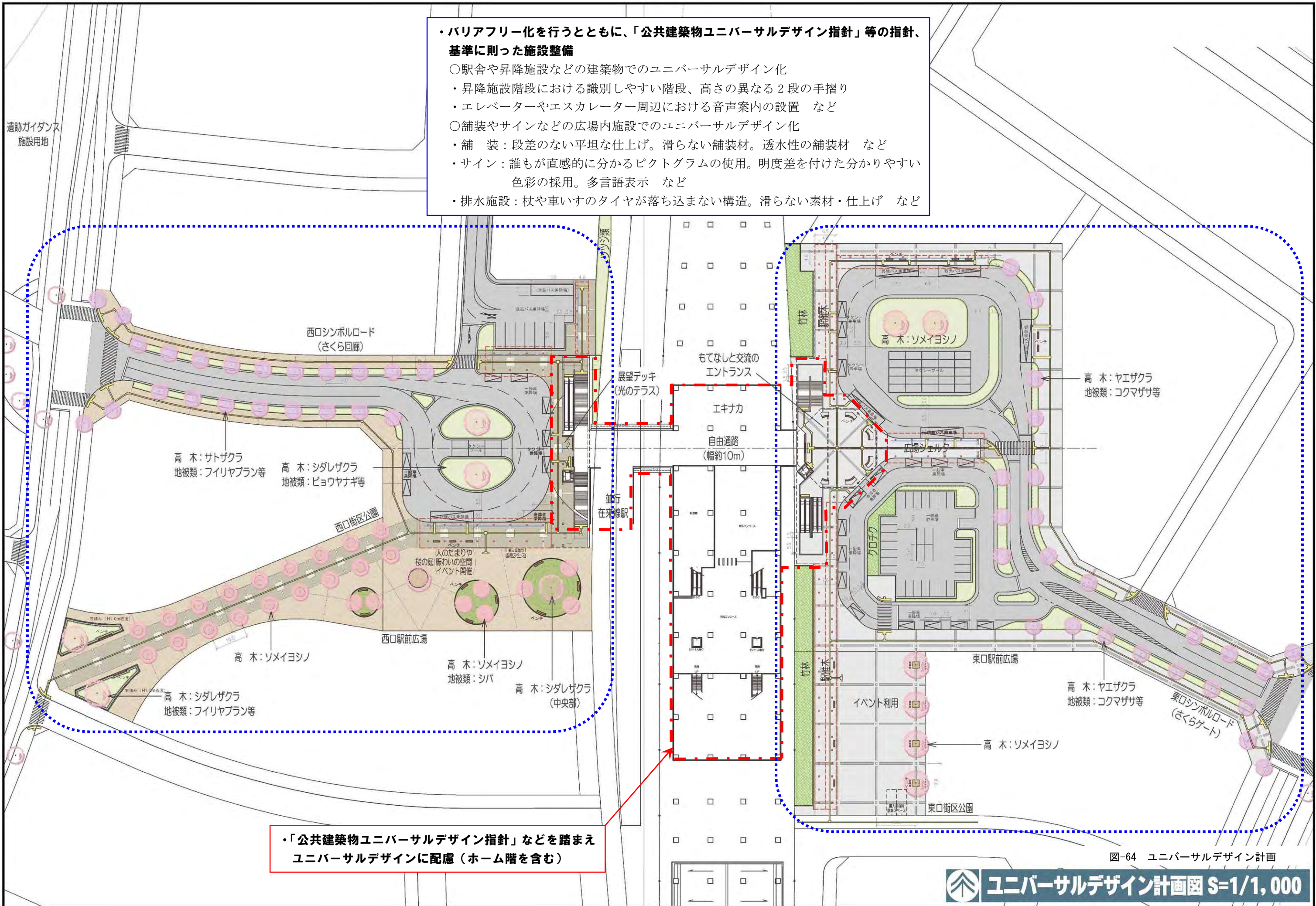
写真-24 段差のないエントランス



写真-25 ガラス面の表示

・バリアフリー化を行うとともに、「公共建築物ユニバーサルデザイン指針」等の指針、基準に則った施設整備

- 駅舎や昇降施設などの建築物でのユニバーサルデザイン化
 - ・ 昇降施設階段における識別しやすい階段、高さの異なる2段の手摺り
 - ・ エレベーターやエスカレーター周辺における音声案内の設置 など
- 舗装やサインなどの広場内施設でのユニバーサルデザイン化
 - ・ 舗装：段差のない平坦な仕上げ。滑らない舗装材。透水性の舗装材 など
 - ・ サイン：誰もが直感的に分かるピクトグラムの使用。明度差を付けた分かりやすい色彩の採用。多言語表示 など
 - ・ 排水施設：杖や車いすのタイヤが落ち込まない構造。滑らない素材・仕上げ など



・「公共建築物ユニバーサルデザイン指針」などを踏まえユニバーサルデザインに配慮（ホーム階を含む）

図-64 ユニバーサルデザイン計画